

植物学創始期の俊英

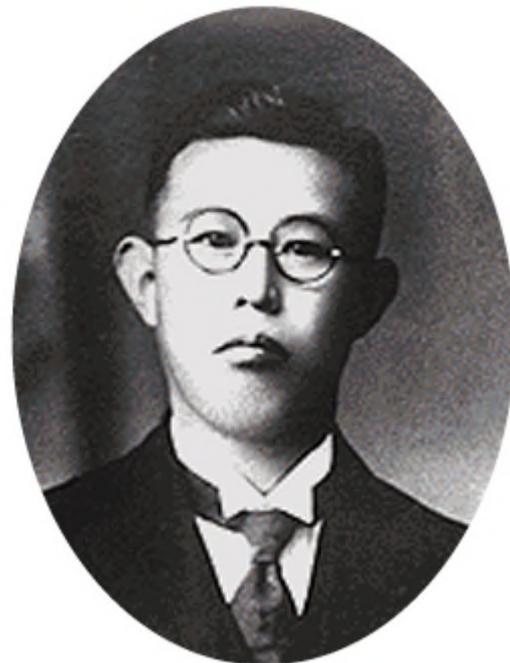
工藤 祐舜

くどう ゆうしゆん

出身地 横手市（旧増田町）

1887年（明治20年）～1932年（昭和7年）

生涯の師、宮部金吾博士のもとで、北海道、樺太、千島の植物誌をまとめたほか、大著『日本支那産唇形植物の分類』など、短い生涯のうちに多くの業績を残した。教え子の中からは、優秀な植物学者が輩出している。



年譜

- 1887年 横手市（旧増田町）に生まれる。
- 1901年 県立第三中学校（現・横手高校）入学。
札幌農学校（現・北大）教授宮部金吾に学ぶ。
- 1912年 東京帝国大学理科大学卒業。東北帝国大学農科大学（現・北大）助手。のち同大学助教授。
- 1922年 『北千島幌筵島植物誌』により理学博士。
- 1925年 在学研究員として欧米に留学。
- 1928年 帰国。台北帝国大学理農学部教授に就任。
- 1929年 『日本支那産唇形植物の分類』を刊行。
- 1932年 台湾・台北市で没。44歳。